

IT21 の会 (平成 18 年 6 月) 第 100 回議事録

日 時 : 平成 18 年 6 月 9 日 (金) 18 時 00 分 ~ 20 時 25 分

場 所 : 機械振興会館 6 - 6 4 会議室

出席者 : 17 名

配布資料

- ・ 0606-1 IT21 の会例会 100 回記念メッセージ (小牛田 尋志氏)
- ・ 0606-2 IT21 の会 会員名簿 (小牛田 尋志氏)
- ・ 0606-3 ウォーターフォール型開発方法の改善案 (大脇 文雄氏)
- ・ 0606-4 「b 値」を用いる地震予測手法の開発 (犬伏 裕之氏)
- ・ 0606-5 週間地震予報 ; 3・4 月の予測 / 実況対応レポート (犬伏 裕之氏)

議 事

- 1 . 議事および資料確認 神部 美夫氏
- 2 . 『ウォーターフォール型開発再考察』 神部 美夫氏

神部氏は伊豆河津町にて自然の瀧を見る機会があった。導入部ではこの時の写真をスライドショーで再生し、追体験を行った。昨今では短納期化等の流れから、スパイラル型や統一プロセスなどの開発モデルがクローズアップされ、ウォーターフォールモデルが注目される機会は少ない。本発表では、実践重視の風潮の中で風化しつつあるウォーターフォールモデルを自然の瀧 (更には、自然の瀧から連想される電気回路等のメタファー) と対比させながら、マニュアル化や実践適用重視のなかで見えにくくなっていた理論的本質の再考を行った。
- 3 . 『ウォーターフォール型開発に関連して』 大脇 文雄氏

短納期化により仕様未確定なまま開発開始するケースが増える中、「開発開始後に仕様を変えない」というウォーターフォール型開発における鉄則を貫くことは難しい。大脇氏は、要求分析・基本設計までをウォーターフォールで行い、詳細設計以降を GeneXus によるインクリメンタル開発で行う改善案を提案した。GeneXus の導入によって詳細設計以降の作業が簡略化され、各サブシステムの機能単位でユーザ部門の担当者による検証・承認を受けられる。インクリメンタル開発はユーザからの仕様変更を助長するため、プロジェクトマネージャーによるスコープや仕様変更の厳格な管理が成功の鍵である。
- 4 . ウォーターフォール型開発のディスカッション
各発表内容への感想や質問があった。大脇氏より、GeneXus による開発工程ではソースコードが完全自動生成であり無価値であるなどの補足説明があった。
- 5 . 地震予測 P J (PJ-JSN3) 犬伏 裕之氏

2006 年 3~4 月にて活動した短期的地震予測プロジェクトの紹介があった。また、今後 PJ-JSN3 として活動していく旨、紹介があった。
- 6 . 第 10 期役員選挙 阿部 誠氏

小西洋三氏、桑島哲哉氏、西垣栄氏、中嶋幸宏氏の 4 名に決定した (ML:14259)。
- 7 . その他連絡事項、初参加の方の自己紹介
中嶋幸宏氏、金丸弘樹氏の自己紹介が行われた。

以 上 (記載者 : 山田 暁通 記)